

## 平成30年度第2回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1日 時 平成31年3月25日（月）午前10時00分～12時00分

2場 所 和東町体験交流センター 会議室

3出席者 広域連合長 西村 典夫  
副広域連合長 手仲 圓容  
副広域連合長 堀 忠雄  
教育長 西本 吉生  
教育委員職務代理 石橋 常男  
教育委員 北口 弘子  
教育委員 中井 薫  
教育委員 植田 宏和

4傍聴人 なし

### 5議 事

#### (1) 開会

司 会 安原事務局長

#### (2) 広域連合長あいさつ

西村 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。

#### (3) 教育に関する「大綱」について

教育長から資料1に基づき、教育に関する「大綱」の改定の趣旨、内容等について説明を行った。  
質疑等の結果、大綱案については、異議なく承認された。

### <主な質疑・意見交換>

#### ○副連合長

社会に開かれた教育課程の実現の項目が追加されたが、地域ぐるみで教育に関わることでどんな違い、効果があるのか。

#### ○教育長

笠置小学校では、10数年来、地域が学校を支援するところから進んできたが、2年前からは「支援」だけでなく、学校も地域に貢献していく「協働」という形に変わった。子どもが地域に支えられているという実感、地域の中で育てているという認識が育まれている。地域の人たちも学校を支えている、自分たちで育てていかないといけないという認識を持たれている。こういった認識をさらに育てていきたい。

#### ○副連合長

教育は、すぐに答えが出るものではないが、行政としては、成人してからも愛郷心から地元にいる人が増えるということにつなげたい。地域ぐるみで学校教育に関わることにより、地域に支えられているという気持ちがあって、自分たちも成人してここにしっかり根を下ろすんだという意識につながれば有難い。ただ、教育水準が上がると偏差値が基準となり、人間性とか愛郷心とか地域の人たちに支えてもらった気持ちを大事にして地域に貢献しようということにつながっているのか、現実はなかなか厳しい。人口減少、地域から子どもが少なくなることが一番心配である。

#### ○教育長

子どもたちが地域に出ていくようになった。地域のために自分たちができることを考え、地域を大事にしていけないといけないという思いは伝わってくるし、芽生え始めている。

#### ○副連合長

行政としては、何とか子どもたち、教育を支援していきたいと考えており、いい学校も作ったし、エアコンも付け快適な環境とするなど努力しているが、子どもは減っている。目標をもって、目標に少しでも近づけていきたいが、全国的に人口が減っているし、これはもう日本の社会のしくみの問題。結婚しない、子どもをつくらないという人が増え、社会問題となっている。しつけを学校や人に任せる風潮もあり、こうした中で、地域と学校が手を組んで一緒にやっっていこうという取組は重要。

#### ○教育委員

公立高校は地域に根ざした学校を目指し、地元の子どもの育て地域貢献につなげようとしているが、こちらの考えている方向と逆の方向に動いている面もある。1つは、グローバル化。世界中どこに行っても通用する優秀な人材を育て、国際社会に出ていく。それでは、ローカルはどうするのか。こちらが考えていること、子どもたちが受けている教育、国が考えていること、それぞれのセクションの思いだけで、つながりがなくその融合点が見つかっていないのではないかな。

#### ○副連合長

グローバルな視点を持った人材が、地元に残り、そういった人を増やしていくにはどうしたらいいのか。いい教育をすればいい人材が育つが、地域に残らない、親の面倒を見ないといったことにもなりかねない。

#### ○副連合長

知識を持った人は多いが、その知識を個人のためだけではなく、公共性に使っていないといけない。まずは根本であるローカルを理解し、その上でグローバルに向かうものだが、現代社会ではSNSで発信、情報もすぐ手に入るし、便利性に走る。健康に良いものより、うまいものとなる。そうした中で、根本を教育できるのが相楽ならではの教育。ふるさと教育を通じて、また地域に出てコミュニケーションをとる中で、空気を読める人が育ち、自然と人間力を身に付けていく。この相楽東部の生きる力、人間力を育てる教育を、日本全国に世界にアピール、発信していかないといけない。

#### ○教育委員

外国の方からは、日本の昔ながらの原風景が評価される。まだ地域の良さに気づいていない。地域を愛する気持ちを育てることが大切。今は、修学旅行より林間学習の方が楽しいと評価される面もあり、連合の良さを発揮できる土壌がある。

#### ○教育委員

恵まれた自然の中で育つと、その良さを気づきにくい。地域の良さを発信していくことが必要。

○教育委員

グローバル、ローカルもそれぞれの良さがある。自然も大事だし、外に出て初めて良さがわかる部分もある。それぞれの能力を発揮し、それぞれが活躍できる場で輝く、活躍できる社会、しくみが大切。またお茶の産地として、お茶の教育を通じて、おもてなしの心、気持ちを教えていくことが重要。

○教育委員

連合ならではの教育を通じて、また地域に出て行って、自分たちの表現力を発揮し、その中で自信を得ていく。小さな学校だから、自分が重要な役割を担い、一人ひとりが伸びていく、そういった力が培われているものと実感している。

○副連合長

価値観をどこに置くかが大事。田舎の良さを認める教育、目指す方向は間違っていない。地域にとどまってほしい願望はあるが、自分のふるさとは「ここ」という意識をもってほしいし、教育の中で育ててほしい。行政としては地域を守りたい。地域に戻って、地域で頑張ってくれる人を増やしたい。

○教育長

今年の中学校の卒業式で贈った言葉が、「一旦ふるさとを離れてもいつの日か帰らん。『志を果たしに帰るもよし、志を果たして帰るもよし』」。希望としては、志を果たしに帰ってきてほしいが、どちらでも結構かと思う。志を果たしに帰ってきてくれる人が増えるよう、教育だけでなく、行政もキーワードとしてほしい。

○副連合長

まちづくりには、感じてもらうことが大事。地域の良さを、住民が頑張っているところを発信して、この地域のすばらしさ、良さを感じてもらいたい。

○副連合長

行政としては、志を果たせるような環境も整えないといけないし、行政と教育がともに取り組んでいかないとけない。

#### (4) 平成31年度「連合の教育」重点的取組について

〔 教育長から資料2に基づき、説明を行い、意見交換を行った 〕

#### <主な質疑・意見交換>

○副連合長

町史編さんについては、各町村とも歴史があり、関わりつながりがある。子どもにも途中段階でも知ってほしいし、社会教育の中でも活かしてほしい。

○教育長

町史を作るだけがねらいではなく、町史は町の活性化につながるものであり、途中経過でも、いろんな取組を重ねながら、進めているところ。

○教育委員

先日行われた講座の中でも、他地域の話も絡めながら、わかりやすく説明いただいた。

○副連合長

教育委員会のホームページで紹介したり、広報誌で取組の内容、さらには連合教育委員会になっての効果や良さについても広く広報していくことが大事。

○副連合長

連合の広報誌となるよう連合の写真や記事を充実させるなど、読みやすい工夫も必要。